

平成29年 1月21日(土)

# さ えき 佐伯遺跡(第8次) 現地説明会資料

調査場所 亀岡市菟田野町佐伯

調査期間 平成28年5月9日～平成29年1月末日(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

佐伯遺跡は、亀岡市菟田野町佐伯に所在する縄文時代から中世にかけての集落遺跡として知られています。

周辺の遺跡としては、西側の丘陵裾部に横穴式石室を埋葬施設にもつ佐伯古墳群があります。東側には、弥生時代中期から鎌倉時代にかけての集落遺跡である天川遺跡、北側には、縄文時代や古墳時代から中世にかけての集落遺跡である鹿谷遺跡、縄文時代晩期から中世にかけての集落遺跡である太田遺跡などが所在します(第1図)。

また、調査地近隣には、平安時代の『山陰道』が通っていたと考えられており、この周辺は交通の要所であったと考えられます。

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」の実施に伴い、京都府教育委員会と亀岡市教育委員会の調査結果を踏まえ、当調査研究センターが昨年度から発掘調査を継続して実施しています。

昨年度の調査では、古墳時代後期の竪穴建物13基や、奈良時代から平安時代の掘立柱建物7棟などが見つかり、古墳時代後期から平安時代にかけてこの地に断続的に集落が営まれていたことがわかりました。

## 2. 調査成果

今年度は、合計14,500㎡の調査を行う予定ですが、今回は、このうち対象地の北東の12トレンチ、B-4・5・6区及び14トレンチを中心に説明を行います。

調査地周辺は水田及び畑地ですが、いずれの調査区でも建物跡などの遺構は、昨年度同様に耕作土直下で見つかっています。調査地全体にわたって後世の耕作による削平を受けており、5cm程度しか残っていない柱穴などもあります。

## 12トレンチ

奈良時代の掘立柱建物が2棟見つかりました。掘立柱建物1は南北棟で2間×3間以上の建物です。掘立柱建物2は南端の2間分が見つかっており、建物の中心部分は調査区外の北側へ広がると考えられます。2棟とも建物の軸はほぼ北を向いています。

また、12トレンチで見つかった溝1からは須恵器の杯身や蓋など奈良時代の遺物が出土し、その中には「正福」と文字を墨書したもので漆が付着したものがありません。

この他に縄文時代後期の土坑も見つかっています。

## B-4・B-5・B-6区

奈良時代から鎌倉時代の遺構が見つかりました。また井戸や溝2から奈良時代の土器が出土しています。このほか1辺8mの古墳時代中期末から古墳時代後期初頭の方墳1基が見つかり、周溝内から須恵器が出土しました。墳丘や埋葬施設はすでに削られています。

## 14トレンチ

小規模ながら平安時代の掘立柱建物(2間×3間の東西棟と2間×2間以上の南北棟)2棟が見つかり、そのほかの土坑から緑釉陶器が出土しています。

この他7トレンチでは耕作土から奈良時代の蹄脚円面硯が出土しています。

## 3. まとめ

今回の調査で12トレンチからB-5トレンチでは奈良時代の、14トレンチでは平安時代の掘立柱建物が見つかりました。

特に12トレンチで見つかった掘立柱建物は方位を北にそろえて建てられており、これまでの佐伯遺跡で見つかった方位がまちまちの掘立柱建物群と比べ注目されます。

今回見つかった掘立柱建物は全体として遺跡が大きく削られているため、残された建物跡のみからでは、建物の詳しい配列や、性格を探ることができませんが、方位を北にそろえた建物が見つかったことや周辺から蹄脚円面硯や墨書土器が出土したことから、佐伯遺跡が奈良時代の一般的な集落ではなく、何らかの役所的な施設が存在した可能性も考えられます。

また、周辺の平野部では古墳の分布が不明でしたが新たに古墳が確認され、地域の歴史を考える上で貴重な資料を加えました。

最後になりましたが、今回の調査に際し、調査に参加していただいた皆様、各方面から御指導、御協力いただいた皆様に、深く感謝いたします。

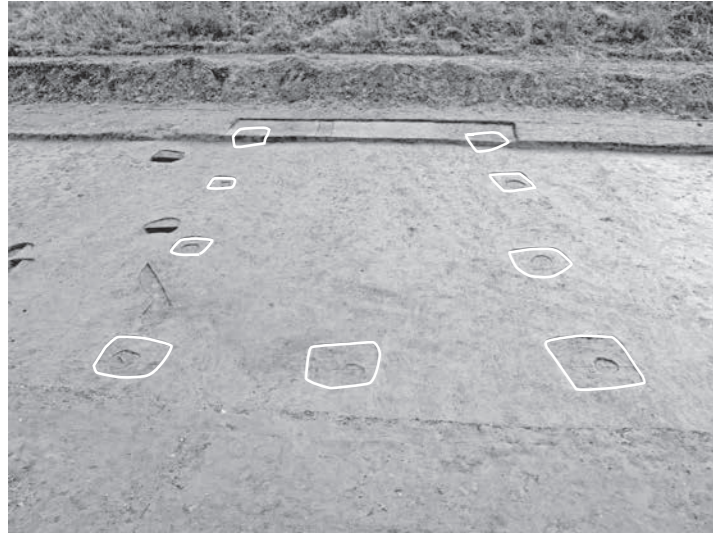


1. 佐伯遺跡 2. 佐伯古墳群 3. 佐伯館跡  
4. 天川遺跡 5. 鹿谷遺跡 6. 太田遺跡

第1図 調査地と周辺遺跡分布図  
(国土地理院1/25,000 亀岡より作成)



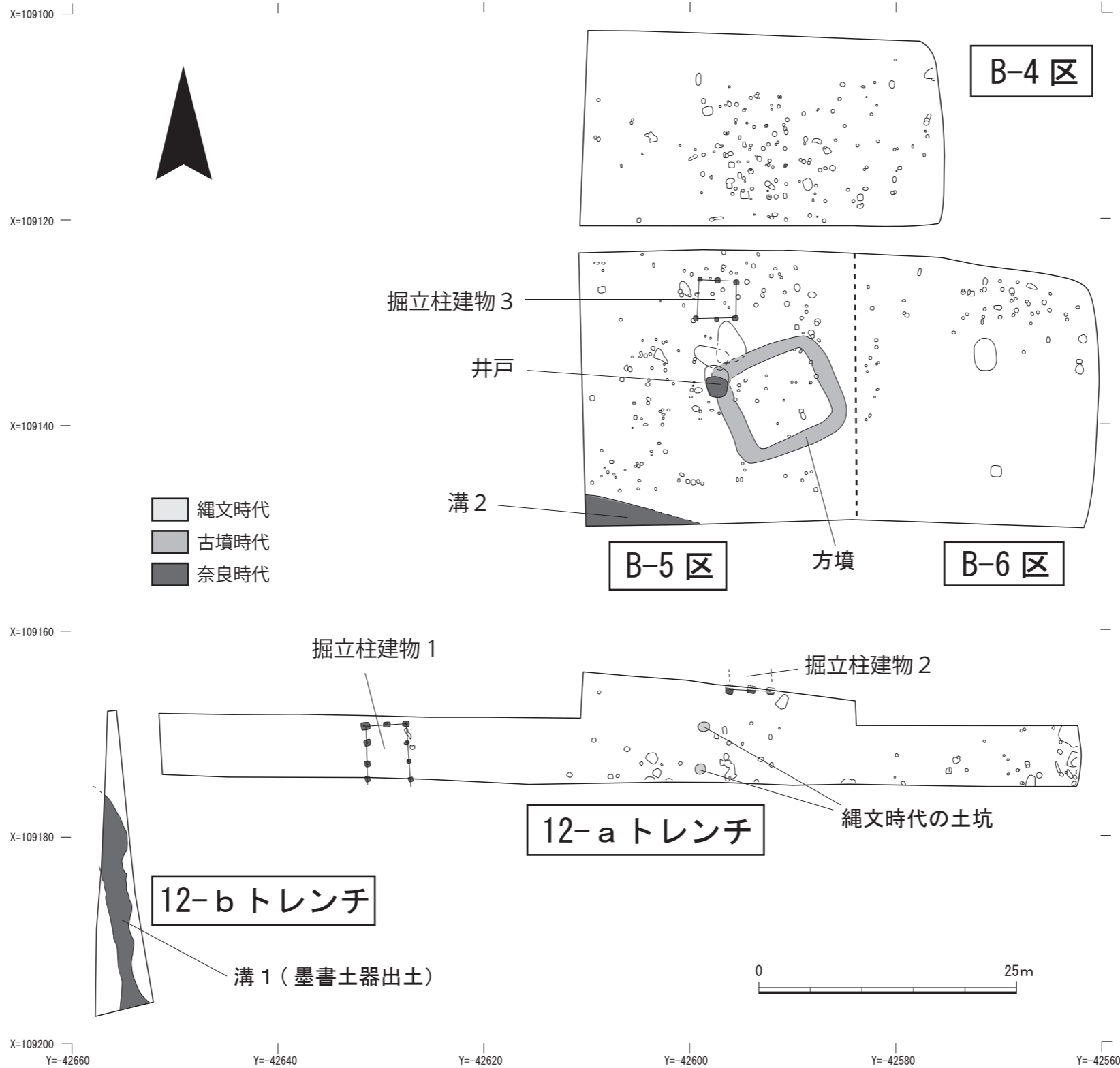
第2図 調査地区配置図



掘立柱建物1  
(北から)



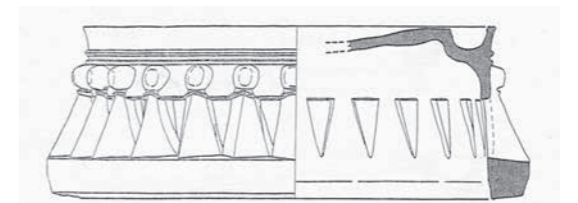
溝1出土墨書土器  
「正福」



方墳周溝検出状況  
(南東から)



7トレンチ出土蹄脚円面硯



参考資料  
奈良文化財研究所 2007  
『平城京出土硯集成II 平城京・寺院』より

◇用語解説◇

ほったてばしらたてもの  
**掘立柱建物**：礎石を用いず、地面に穴を掘り、そのまま柱（掘立柱）を立てた建物

ていきやく えんめんけん ひづめ  
**蹄脚円面硯**：円形の硯の周囲に蹄を模した台がついた硯  
硯は官衙や寺院で使用されていたがその中でも格の高い硯

りよくゆう とうき  
**緑釉陶器**：緑色の釉薬がかけられた陶器  
平安時代に都の貴族が好んで使った